

- ・観察コースと内容：鳥の博物館→フジ棚→滝前広場→手賀沼遊歩道→鳥の博物館
- ・観察日時/天気：2008年3月8日(土) 10:30~12:00/晴れ
- ・参加者：30人
- ・スタッフ:16人(敬称略・五十音順)：青木義尚、石原直子、伊藤茂子、木村稔、小泉伸夫、染谷迪夫、中井清子、弘貴さと子、古川克彌、松村定雄、水上香苗、保田行弘、湯瀬一栄
- ・鳥博職員：岡廣志、斎藤安行、村松和行

観察記録—3月に観察した生き物リスト—

【鳥類】

カイツブリ、ハジロカイツブリ、カワウ、コサギ、アオサギ、マガモ、カルガモ、コガモ、オナガガモ、ツミ、キジ、バン、オオバン、タシギ、ユリカモメ、キジバト、カワセミ、ハクセキレイ、セグロセキレイ、ヒヨドリ、モズ、ジョウビタキ、アカハラ、ツグミ、ウグイス、シジュウカラ、メジロ、アオジ、オオジュリン、カワラヒワ、シメ、スズメ、ムクドリ、ハシボソガラス、ハシブトガラス、コバクチョウ、ガチョウ、ドバト

【昆虫】

ナナホシテントウ、ヒメアカボシテントウ、モンシロチョウ、ヨコズナサシガメ、コガタルリハムシ

【クモ】

エビグモの仲間、カニグモの仲間、ネコグモの仲間、アシナガグモの仲間、ハエトリグモの仲間

【植物】

花：キュウリグサ、ハルジオン、オオイヌノフグリ、ノボロギク、タネツケバナ、ヒメオドリコソウ
ヒメリュウキンカ(園芸種)

その他の草花：ノゲシ、オニノゲシ、アメリカオニアザミ、ツクシ、カラスノエンドウ、セイヨウカラシナ、

樹木：コブシ(花)、ミツマタ(花)、ヤブツバキ(花)、アオキ(実と花)、ヒサカキ(つぼみ)、ニワトコ(つぼみ)、ニセアカシア(葉痕)、アジサイ(葉痕)、サンショウ(葉痕)

春の花たち

ハコベの見分け方



- 帰化植物
- 茎が暗い紫色
- おしべが3~5本
- 白い花弁ががく弁よりも短い
- 日本在来種
- 茎が緑色
- おしべが8~10本
- 白い花弁ががく弁はほぼ同じ長さ



*ヒメリウキンカは園芸種

なんだか似てる？



帰化植物のアメリカオニアザミとオニノゲシのロゼットは似ていますが、先端の鋭いトゲがアメリカオニアザミにはあります(右写真)オニノゲシと似ているノゲシは花が咲いていました!



樹木の葉痕



落葉後に茎に残る葉痕も観察しました。サンショウの葉痕はよく見ると丸い冬芽がついていました。ヤマグワの葉痕は維管束がはっきりと観察できました。ニセアカシアはまるで鬼の面のようでした。

こも巻きはずし

去年10月下旬に樹木につけたこもを外すとクモの仲間が多く見つかりました



樹木の葉や枝の間や落ち葉の中を徘徊する。昼間に活動し脚は1・2脚が長く、3・4脚が短い。 エビグモと近い仲間では多くは草木の花や葉の上で生活する。 公園や林道などの樹木の枝葉の間などを徘徊して餌を探す。 水田のような水辺に多い。中央に穴が開いた円型の網を張る。 眼がよくみえるクモ。樹皮や落葉上で跳びながら餌を探す。

越冬昆虫~てんとう虫編~



テントウムシといえば越冬する代表的な昆虫です。一部を除きほとんどが越冬します。今回はナナホシテントウとヒメアカホシテントウを観察しました。ナナホシテントウの終齢幼虫になるとテントウムシの幼虫たちをよく見かけるようになります。



今月の観察ルート